

现代日语 时间副词研究

現代日本語の
時間副詞に関する研究

孙佳音 著

中国社会科学出版社

孙佳音 著

现代日语 时间副词研究

現代日本語の
時間副詞に関する研究

中国社会科学出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

现代日语时间副词研究/孙佳音著. —北京: 中国
社会科学出版社, 2010. 5
ISBN 978-7-5004-8786-9

I. ①现… II. ①孙… III. ①日语—时间—副词—
研究 IV. ①H364. 2

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 090582 号

责任编辑 王 茵
责任校对 韩 辉
封面设计 格子工作室
技术编辑 王炳图

出版发行 **中国社会科学出版社**
社 址 北京鼓楼西大街甲 158 号 邮 编 100720
电 话 010-84029450 (邮购)
网 址 <http://www.csspw.cn>
经 销 新华书店
印 刷 北京君升印刷有限公司 装 订 广增装订厂
版 次 2010 年 5 月第 1 版 印 次 2010 年 5 月第 1 次印刷
开 本 880×1230 1/32
印 张 12 插 页 2
字 数 293 千字
定 价 30.00 元

凡购买中国社会科学出版社图书, 如有质量问题请与本社发行部联系调换
版权所有 侵权必究

序

北京语言大学外国语学院日语系教师孙佳音的博士学位论文《现代日语时间副词研究》即将付梓，她嘱我为其作序，时下导师为自己学生的专著写序，似乎已经成为惯例，作为她硕士研究生和博士研究生的导师，我也只好从俗了。

孙佳音关于现代日语时间副词的研究始于她在北京大学攻读硕士研究生的阶段，记得当时我推荐她做这个课题，还得到了已故的日本著名语言学家奥田靖雄先生的首肯，而以后她写出来的硕士学位论文也受到了日本时体研究的权威、大阪大学工藤真由美教授的称赞。这部博士学位论文，是在她的硕士学位论文的基础上进一步扩展、系统化的结果，也是孙佳音这些年来潜心研究的结晶。在此，对本书的出版表示由衷的祝贺。孙佳音的博士论文写作，也得到过日本爱知大学荒川清秀教授的悉心指教，在此对荒川先生表示衷心的感谢。

日本的一些语法学家将时间副词看作副词的一个次类，这是近年来的事情，也有的学者区分“时的副词（テンスの副詞）”和“体的副词（アスペクトの副詞）”，但是，在孙佳音之前并没有人对日语的时间副词进行过专门的、系统的研究。所以，说孙佳音的研究具有某种填补空白的意义，不为过也。我以为，本书的学术价值就在于它建构了日语时间副词的体系，并且进行了详

尽的描写和细致的分析。本书采取实证的方法，通过自己调查的第一手资料对日语的时间副词的使用现状进行了计量分析，基本搞清了时间副词的分布情况，并对主要的（使用频率高的）时间副词的意义和功能进行了详细的描写。尤其是本书指出「もう」的基本语义特征是表示“变化后的状态的持续”，「まだ」的基本语义特征是表示“变化前的状态的持续”，二者在“变化的前后”这点上形成了对称的关系，我认为这不失为本书的一个亮点。另外，本书还指出了时间副词的本质特征——与共现动词的“时(tense)”和“体(aspect)”存在对应关系和相互作用，并对此进行了论证，应该说结论是可靠的。本书对日语时间副词之间的共现关系及其语序上的特征也进行了探讨和论证。本书不论对于日语副词的研究还是日语时体的研究都是一个非常有意义的尝试。

我在为本书的出版感到欣慰的同时，更期待着孙佳音在今后的学术研究中取得更大的成就，完全有理由相信她可以做到这一点。

是为序。

彭广陆

2010年5月9日于牛步居

目次

序	(1)
第1章 序章	(1)
1.1 副詞における時間副詞の位置づけ及びその研究	(1)
1.1.1 副詞をめぐって	(1)
1.1.2 時間副詞をめぐって	(10)
1.2 本研究について	(19)
1.2.1 本研究の動機	(19)
1.2.2 本研究の研究対象	(20)
1.2.3 本研究の目的と方法	(21)
1.2.4 本書の構成	(25)
1.2.5 関連概念	(26)

上編 テンスと呼応する時間副詞

第2章 過去を表す時間副詞	(39)
2.1 はじめに	(39)
2.2 発話時を含む過去を表すもの	(39)

2 / 現代日本語の時間副詞に関する研究

2.2.1	サイキン【最近】	(40)
2.2.2	チカゴロ【近頃】	(41)
2.2.3	コノゴロ【この頃】	(43)
2.2.4	コノトコロ【このところ】	(45)
2.2.5	ココノトコロ【ここのところ】	(46)
2.2.6	イママデ【今まで】	(47)
2.3	発話時に近い過去を表すもの	(48)
2.3.1	サッキ・サキホド【さっき・先程】	(49)
2.3.2	イマシガタ【今し方】	(50)
2.3.3	センコク【先刻】	(51)
2.3.4	センダッテ【先だって】	(51)
2.3.5	コノアイダ【この間】	(52)
2.4	発話時から離れた過去を表すもの	(53)
2.4.1	カツテ【かつて】	(54)
2.4.2	カネテ【予て】	(55)
2.4.3	カネガネ【かねがね】	(55)
2.5	その他	(56)
2.5.1	モトモト【元々】	(56)
2.5.2	ツイ【つい】	(57)
2.6	おわりに	(58)
第3章 現在を表す時間副詞		(60)
3.1	はじめに	(60)
3.2	発話時とその直前・直後の時点を表すもの	(60)
3.2.1	イマ【今】	(61)
3.2.2	タダイマ【ただ今】	(72)
3.3	発話時を含む時間帯(現段階)を表すもの	(74)

3.3.1	イマヤ【今や】	(75)
3.3.2	イマノトコロ【今のところ】	(77)
3.3.3	ゲンザイ【現在】	(79)
3.3.4	モッカ【目下】	(82)
3.3.5	トウメン【当面】	(83)
3.4	モダリティーの意味を伴うもの	(84)
3.4.1	イマゴロ【今頃】	(84)
3.4.2	イマジブン【今時分】	(87)
3.4.3	イマドキ【今時】	(88)
3.4.4	イマサラ【今更】	(89)
3.5	おわりに	(92)
第4章	未来を表す時間副詞	(94)
4.1	はじめに	(94)
4.2	発話時に近い未来を表すもの	(94)
4.2.1	サシアタリ・サシアタッテ 【差し当り・差し当って】	(94)
4.2.2	トウブン【当分】	(95)
4.2.3	イズレ【いずれ】	(97)
4.2.4	ソノウチ【そのうち】	(98)
4.2.5	チカク【近く】	(100)
4.2.6	チカヂカ・キンキン【近々】	(100)
4.2.7	ノチホド【後程】	(101)
4.3	発話時から離れた未来を表すもの	(102)
4.3.1	アトアト・ノチノチ【後々】	(102)
4.4	相対的未来をも表すもの	(103)
4.4.1	ヤガテ【やがて】	(103)

4 / 現代日本語の時間副詞に関する研究

4.4.2	マモナク【間もなく】	(105)
4.5	モダリティーの意味を伴うもの	(106)
4.5.1	イマニ【今に】	(106)
4.5.2	イマニモ【今にも】	(108)
4.6	おわりに	(108)
第5章	不定時を表す時間副詞	(111)
5.1	はじめに	(111)
5.2	イツ【いつ】	(111)
5.3	イツカ【いつか】	(112)
5.4	イツデモ【いつでも】	(114)
5.5	おわりに	(117)

中編 アスペクトと呼応する時間副詞

第6章	完成を表す時間副詞	(121)
6.1	はじめに	(121)
6.2	時間間隔の短さを表すもの	(121)
6.2.1	逐次関係のもの	(122)
6.2.2	同時関係のもの	(138)
6.3	時間的前後関係を表すもの	(140)
6.3.1	初回を表すもの	(141)
6.3.2	事前を表すもの	(143)
6.3.3	先行を表すもの	(144)
6.3.4	順序を表すもの	(149)
6.4	再発を表すもの	(150)
6.4.1	マタ【また】	(151)

6.4.2	アラタメテ【改めて】	(154)
6.4.3	モウイチド【もう一度】	(155)
6.4.4	フタタビ【再び】	(157)
6.5	実現に関する時間的様態を表すもの	(157)
6.5.1	ヤット【やっと】	(158)
6.5.2	ヨウヤク【漸く】	(160)
6.5.3	ツイニ【ついに】	(162)
6.5.4	トウトウ【とうとう】	(163)
6.5.5	イヨイヨ【いよいよ】	(166)
6.6	漸進的変化を表すもの	(167)
6.6.1	ダンダン【段々】	(167)
6.6.2	シダイニ【次第に】	(170)
6.6.3	ジョジョニ【徐々に】	(171)
6.7	時間の経過を表すもの	(173)
6.7.1	イツノマニカ【いつの間にか】	(173)
6.7.2	イツシカ【いつしか】	(175)
6.8	時間の幅を表すもの	(176)
6.8.1	シバラク【暫く】	(176)
6.8.2	ヒトシキリ【一頻り】	(180)
6.9	おわりに	(180)
第7章	継続を表す時間副詞	(182)
7.1	はじめに	(182)
7.2	変化が予想された状態の継続を表すもの	(182)
7.2.1	マダ【未だ】	(183)
7.2.2	アイカワラズ【相変わらず】	(200)
7.3	継続のみを表すもの	(203)

7.3.1	ズット【ずっと】	(203)
7.3.2	イツマデモ【いつまでも】	(206)
7.4	継続と反復を表すもの	(209)
7.4.1	ツネニ【常に】	(209)
7.4.2	シジュウ【始終】	(213)
7.4.3	タエズ【絶えず】	(215)
7.5	おわりに	(217)
第8章 パーフェクトを表す時間副詞		(223)
8.1	はじめに	(223)
8.2	モウの類	(225)
8.2.1	モウ【もう】	(225)
8.2.2	モハヤ【最早】	(250)
8.3	スデニの類	(252)
8.3.1	スデニ【既に】	(252)
8.3.2	トックニ【とくに】	(261)
8.3.3	トウニ【疾うに】	(264)
8.4	おわりに	(265)
第9章 反復を表す時間副詞		(268)
9.1	はじめに	(268)
9.2	反復のみを表すもの	(269)
9.2.1	イツモ【いつも】	(269)
9.3	反復の頻度を表すもの	(275)
9.3.1	高頻度を表すもの	(275)
9.3.2	中頻度を表すもの	(283)
9.3.3	低頻度を表すもの	(292)

9.4 その他	(297)
9.4.1 ナンドモ【何度も】	(297)
9.4.2 クリカエシ【繰り返し】	(299)
9.4.3 マレニ【稀に】	(299)
9.4.4 メッタニ【滅多に】	(300)
9.4.5 アマリ【あまり】	(301)
9.5 おわりに	(301)

下編 時間副詞の特徴

第10章 時間副詞と述語動詞のテンス・アスペクトとの 対応関係及び相互作用	(307)
10.1 はじめに	(307)
10.2 時間副詞とテンス・アスペクトとの 対応関係	(307)
10.2.1 テンスと呼応する時間副詞の場合	(308)
10.2.2 アスペクトと呼応する時間副詞の場合	(315)
10.3 時間副詞とテンス・アスペクトとの 相互作用	(321)
10.3.1 時間副詞がテンス・アスペクトに 作用する場合	(321)
10.3.2 テンス・アスペクトが時間副詞に 作用する場合	(325)
10.4 おわりに	(328)
第11章 時間副詞の間の共起関係と語順	(330)
11.1 はじめに	(330)

11.2	時間副詞の共起について	(332)
11.3	テンスの副詞—アスペクトの副詞	(334)
11.3.1	「テンスの副詞—アスペクトの副詞」 の原則に合致したもの	(334)
11.3.2	「テンスの副詞—アスペクトの副詞」 の原則に反したもの	(337)
11.4	テンスの副詞—テンスの副詞	(340)
11.5	アスペクトの副詞—アスペクトの副詞	(342)
11.6	おわりに	(347)
第12章	終章	(349)
	参考文献	(354)
	例文出典	(360)
	索引	(362)
	后記	(367)

第1章

序 章

1.1 副詞における時間副詞の 位置づけ及びその研究

1.1.1 副詞をめぐって

1.1.1.1 副詞の定義と認定

時間副詞を論じる前に、副詞について少し述べてみたい。

副詞とは何か、これは多くの言語学者を悩ませてきた問題である。「副詞は他の品詞と比べて定義することが困難な品詞で、ただ一つうまく適用できる定義は、定め得る凡ての品詞を定めて、それを除いた残りを一つの品詞として副詞と呼ぶことである。……実にいろいろなものがその中に入っており、しかも一つの基準で律し得ず、他の品詞の山分けをした残りを凡て一まとめにしたものということになれば副詞とは品詞分類のゴミタメといわれるのも一理あるところである。」^①と「副詞ゴミタメ論」を持ち出した学者もいるほどである。

一般的には、日本語の副詞は「自立語で、活用がなく、主と

① 千野栄一（1984）による。

して用言を修飾する（連用修飾語に用いられる）が、他の副詞や体言を修飾することもある。また、一般的には主語・述語とされない^①とされている。この定義に対して、中右（1980）や益岡・田窪（1992）、兪（1999a）などが、用言など単なる「語」を修飾する「語の副詞」や「命題内副詞」のほか、文全体にかかる「文の副詞」や「命題外副詞」もあると指摘している。また、「ご飯はまだだよ」といったような副詞が述語になる用法や、「ずっと昔」「やや右」のような名詞を直接修飾する程度副詞の用法など、繰り返し話題にあげられてきた。

副詞の認定に関しては、「副詞としてどこまでを一語と認めるか」「副詞と他品詞との境界線をどこに置くか」の2点^②がよく取り上げられている。前者については、「ゆっくりと歩く」を例にとれば、「ゆっくり」と「ゆっくりと」とのどちらが一語として認めるべきかということである。後者は、例えば、「いま行く」の「いま」は名詞か副詞か、「学生が3人来た」の「3人」は数量詞か副詞か、「思わず身を乗り出した」の「思わず」は動詞か副詞か、「あやうく命をおとすところだった」の「あやうく」は形容詞か副詞か、「さらに」「つまり」「なお」は接続詞か副詞か、「ちょっと君」の「ちょっと」や「なんときれいな花だろう」の「なんと」は感動詞か副詞か、また「念のため」のようなものは連語あるいは慣用句か副詞か、などの例が考えられる。これらの語は、副詞として認定されるべきか、他の品詞に属し、その品詞の副詞的用法と認められるべきか、研究者または重視される面によってとらえ方が違う。

① 『国語学研究事典』『国語学大辞典』などによる。

② 鈴木一彦（1984）による。

1.1.1.2 副詞の分類

本書の研究対象となる時間副詞は副詞の下位クラスの1つである。そのため、副詞の分類に触れなければならない。以下、これまでの副詞の分類^①を概観してみる。

品詞の分類に使われている基準は、「形態的」「意味的」「機能的」の3つの基準である。日本語の副詞は、形態的に多種多様で、こういう形の語は副詞であるとはいいいにくい。そのため、意味的基準と機能的基準で副詞を分類することが多い。明治期の研究者たちが副詞の意味的分類をしていた。

田中義廉『小学日本文典』(1874) の分類：

地位副詞、時刻副詞、反復副詞、順序副詞、分量副詞、状態副詞、決定副詞、否不副詞、種分副詞、併合副詞、推量副詞、疑問副詞、発語副詞

中根淑『日本文典』(1876) の分類：

作為、地位、時刻、分量、決定、非否

石川倉次『はしことばのきそくのふろく』(1901) の分類：

ときのそえことば、ところほーがくのそえことば、ありさまのそえことば、じゅんじょのそえことば、ぶんりょーのそえことば、ねがいのそえことば、おしはかりのそえことば、くりかえしのそえことば、あつめのそえことば、とりわけのそえことば、はねかえしのそえことば、たずねのそえことば、こたえのそえことば

白田寿恵吉『日本口語法精義』(1909) の分類：

時に関する副詞、順序に関する副詞、地位・方向・距離に関する副詞、程度・分量に関する副詞、状態に関する副詞、想

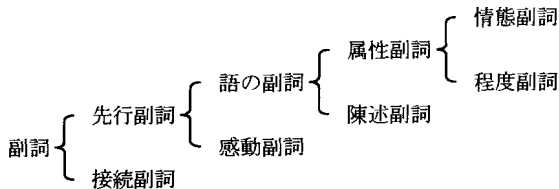
① 矢沢真人 (2000) を参照。

像・願望に関する副詞、希求・願望に関する副詞、疑問・不定に関する副詞、反動に関する副詞、確信に関する副詞、仮定に関する副詞、否定に関する副詞

以上あげたのは、明治期におけるいくつかの「副詞の分類」である。この時期の分類は、意味による分類で、英文典の副詞の分類に倣ったものであるため、英文典の分類の影響が強いという特徴が見られる。

同時期に、三土忠造『中等国文典』(1898) や吉岡郷甫『日本口語法』(1906) など、副詞の意味的分類をしないものと、大槻文彦『広日本文典別記』(1897) や岡田正美『解説批評日本文典』(1902)、保科孝一『日本口語法』(1911) など、積極的に副詞の意味的分類を否定するものがある。

山田孝雄はそれまでの副詞の規定や分類を批判した上で、『日本文法論』(1908) において、新しい機能的分類を提示している。



(山田 1908: 483—515)

上の図に示されているように、山田は、まず「副詞（いわゆる副用語）」を、「それより前にあらわれたる語句の意を下の語句に連ねて意義上二者を媒介結合するもの」である「接続副詞（現在の接続詞にあたるもの）」と、「その意が下なる語句のみ